

# 成

# 人

# 式

1月10日総合センターで、新成人411名(男性212名・女性199名)の新しい門出を祝し、成人式が開催されました。

当日は、対象者の約7割の294名(町外転出者14名を含む)が出席。式典では新成人を代表して、鈴木千穂さん(北本)が力強い「誓いのことば」を述べました。

式典終了後の記念事業では、小・中学校時代の恩師の方々からユーモアたっぷりの励ましの言葉が贈られ、会場は笑顔と歓声につつまれました。

### 堀 美帆(南本)

成人式を迎え、改めて「成人」ということについて考える機会が訪れました。二十歳の誕生日を境に成人と言われるのも、正直ピンときません。自覚ある行動と社会的責任が以前よりも求められることに、少々の焦りと不安を感じます。

これまでに身に付けてきた社会性を大いに発揮すると共に、それを支援してください。両親、諸先生方、地域の方々に感謝いたします。

今後は、自分が支援する側に回るようになるので、多くのことに目を向け、社会人として納得のいく人生にしていきたいと思えます。

### 宮崎 亮一(細田山)

大きな病気やけがもなく、この日を迎えられたことを大変うれしく思うと同時に、今まで支えてくださった方々に心から感謝いたします。

さて、成人した者として、私は今後何をすればよいのでしょうか?考えてみます。

今日から私は成人、社会を創る人間です。ですから、この社会がよりよい方向に向かうように努めることが私の義務となります。そこで必要なのは社会に関する正しい知識と行動力です。従って、私は興味の有無にかかわらず様々な事柄を学び、考え、実行することが成人として為すべきことだと思えます。

### 黒須 幹雄(下郷)

毎朝、目が覚めると鏡の前で顔を洗う。鏡に映る自分の顔を見る。このむさ苦しい顔を二十年間見続けて、ほとんど変わっていないようだが、少しずつ変化してきたのだと思う。確実に年を重ねてきたことを実感する。誰よりもこの顔を見てきたのに、他人に言われるまでなかなか気付かないものだ。

成人して大きく変わることは、それほど多くない気がする。成人としての責任といっても正直よくわからないし、実感もできない。しかし、成人という節目で自分を振り返ることは大変よいことだと思う。

### 立川 肇(北本)

振り返ると、幼い頃の自分は何も考えずに、ただひたすら遊んでいたことを思い出します。

二十歳になることにより法律上では大人となります。しかし、精神的にはまだまだ子どもであり、未熟です。

遠く感じていた成人という節目もあつという間に来てしまし、少々あせりの部分もありますが、社会に振り回されずに自分のペースで自分の道を進み、責任ある行動を心掛け、悔いの残らぬ人生を歩んでいきたいと考えています。

最後になりましたが、両親をはじめ多くの方々に感謝いたします。これからも自分という人間を常に磨いていきたいと思えます。

### 田島 久美子(小針内宿)

晴れて成人の日を迎えることができ、大変うれしく思います。

私たちが生まれてから二十一年。振り返ってみれば、たくさんの出会いや別れ、喜びや悲しみ、楽しさや苦労を経験してきました。世の中では携帯電話が普及し、世紀が変わり、戦争が起きました。短い年月ではあれど、決して軽いものではなかったと思えます。

そのような中で今ここにこうしていられることはとても幸せなことであり、両親や家族、友人、日頃支えてくださった多くの方々への感謝の念は尽きません。どうかこれからも温かく見守ってください。

### 佐藤 友美(栄北)

「二十年を日数にすれば、約七千三百日。正直、この数字があまり多く感じられない、というのが率直な感想です。

世の中の流れがめまぐるしく変わるこの時代、二十年後の自分は想像しがたいものです。しかし、成人というこの区切りを機会に、自分の信念を見つめ直さなければと思えます。

私はこの二十年、一日一日を全力で駆け抜けてきたと思っております。けれども、それができたのは、多くの方々のおかげであると、感謝の気持ちでいっぱいです。

今後この気持ちを忘れずに、自分らしく歩み続けていきたいと思えます。

